

保育作業路開設事業特記仕様書

※使用重機の型式が分かる写真を1枚以上撮影すること。

第1 切土

- 1 切土法勾配は、土砂6分勾配、岩3部勾配とする。

第2 盛土

- 1 盛土工は、地山に段切りを行った上で、1度に締固める盛土材の厚さは概ね30cm程度を目安とし、1層ごとに十分な締固めを行い、路体の強度を確保すること。
- 2 土羽尻を立木掛け、ボサ（枝条等）掛けしないこと。
- 3 盛土法勾配は、1割2分勾配とする。
- 4 盛土高が5mを超える場合は、5mごとに小段を設ける。
- 5 段切りの状況がわかる写真を3枚以上撮影し、提出すること。

（施工中写真例）



段切などの状況がわかる写真



第3 排水

- 1 路面水を処理する排水施設は、少なくとも区間延長50m程度に1ヶ所以上設け、できるだけ路面水が分散するように設置すること。
- 2 路面水は、水に弱い場所（危険地）へ排水しないこと。

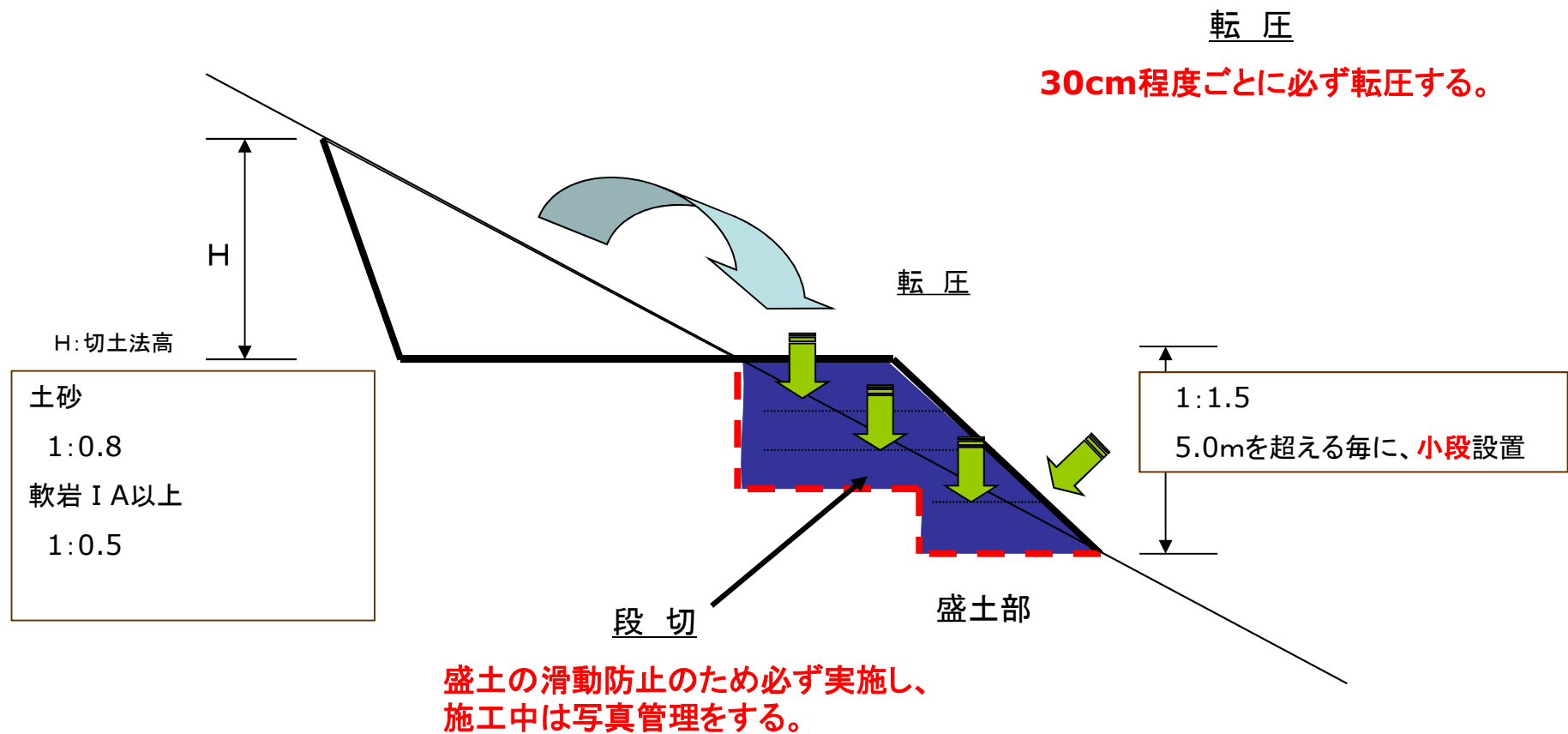
第4 車回し

- 1 車両の回転できる幅で車回しを設置すること。

第5 路盤工

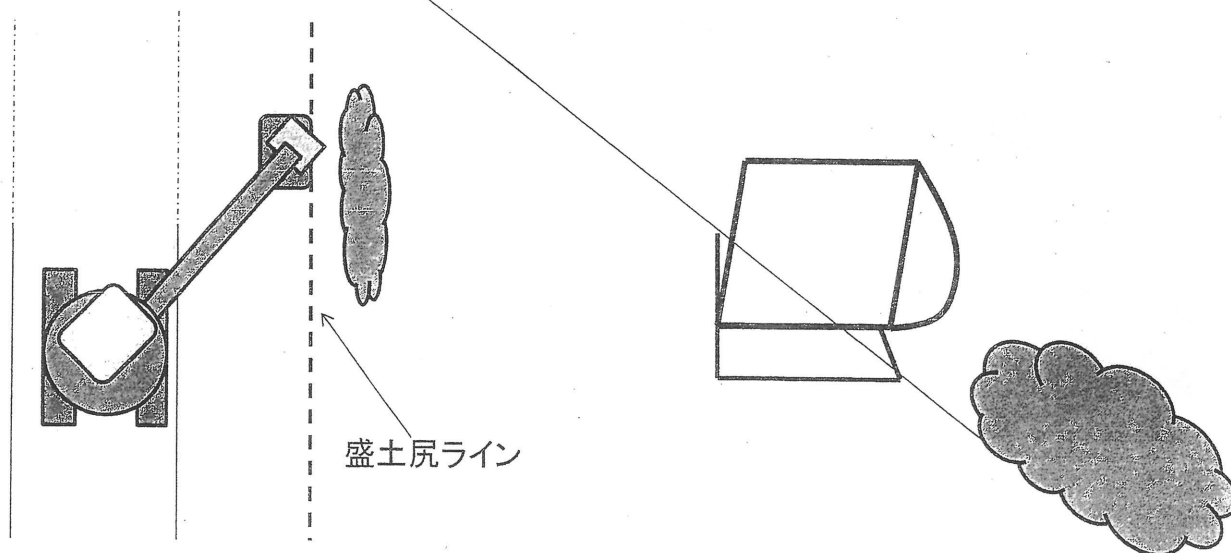
- 1 基礎は充分堅固な地盤に設置すること。
- 2 盛土等で埋まり見えなくなるところについては、写真管理をすること。

土工時の段切りについて(砂防指定地内)



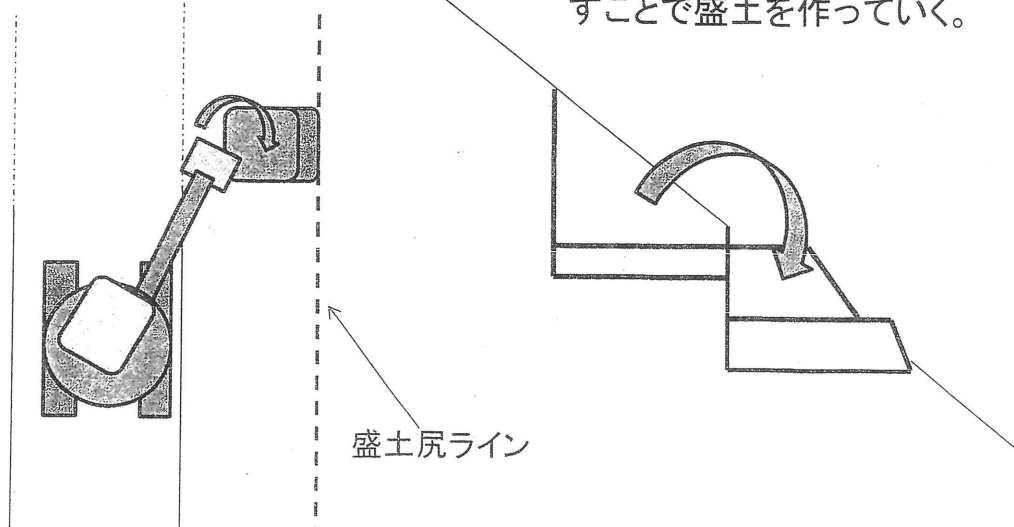
盛土尻の段切り

- 1 盛土を開始する盛土尻の位置を決めたら、枝条等をバケットで盛土尻よりも下方に追いやる。
- 2 法尻位置にバケットを入れて地山を軽くほぐし、ほぐした土をバケットの背で転圧して水平面を作る。



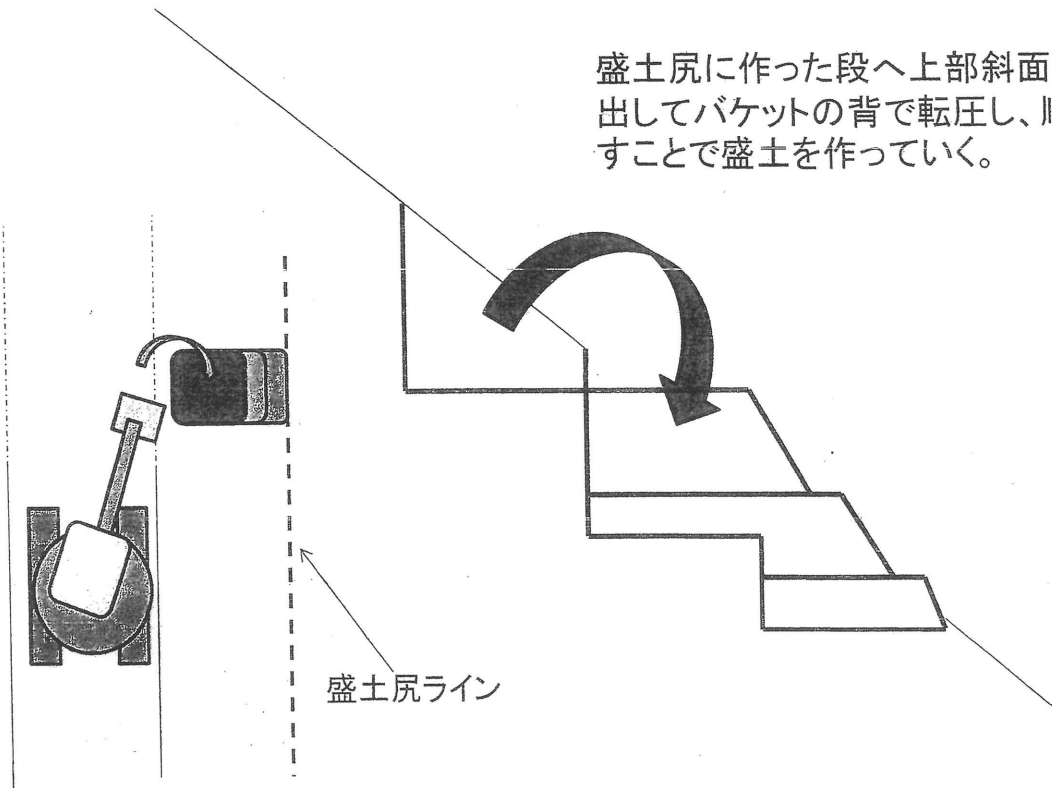
段切りへの土の撒き出し

盛土尻に作った段へ上部斜面の土を撒き出してバケットの背で転圧し、順次繰り返すことで盛土を作っていく。



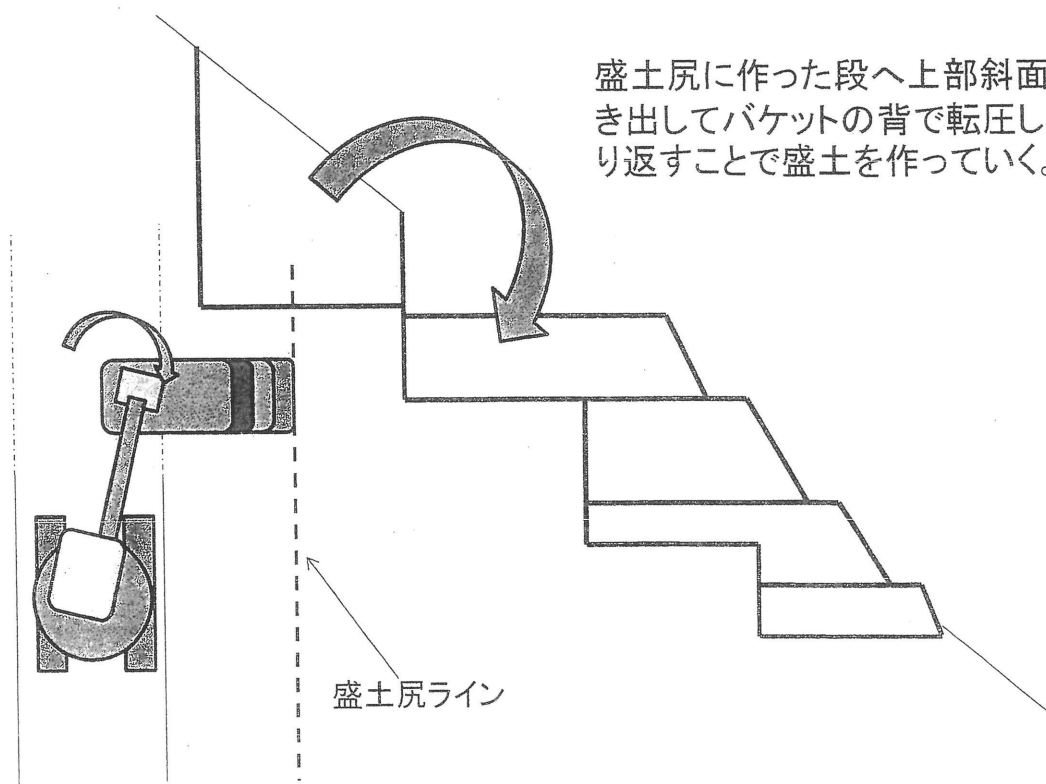
盛土の積み重ね

盛土尻に作った段へ上部斜面の土を撒き出してバケットの背で転圧し、順次繰り返すことで盛土を作っていく。



盛土の積み重ね

盛土尻に作った段へ上部斜面の土を撒き出してバケットの背で転圧し、順次繰り返すことで盛土を作っていく。



切り盛り路体の完成

計画路盤高に路体が出来上がったら、バケットと履帯で十分に路体を転圧する。

必要に応じて段になっている盛土表面の凹みに土を追加する。

盛土側と切土側の路体の転圧が均一になるように、切土側路盤を掘削し地山土をほぐしてから転圧・締め固めする。
機体重量が軽い小型重機を使用する際には特に有効な手段。

法面整形・仕上げ

切土法面整形で発生した土を路面全体にまき散らして転圧して仕上げる。

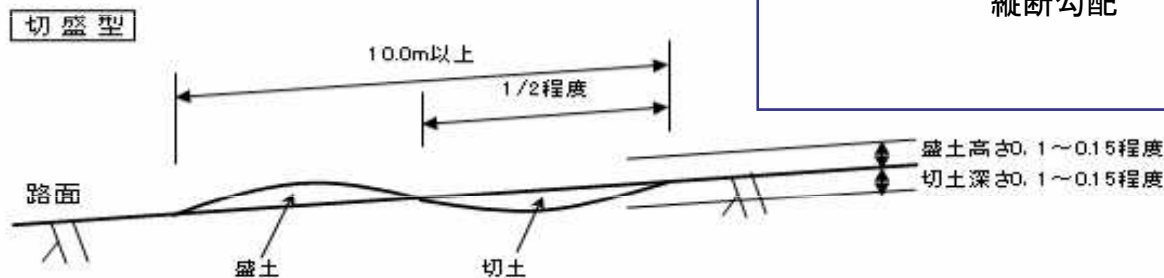
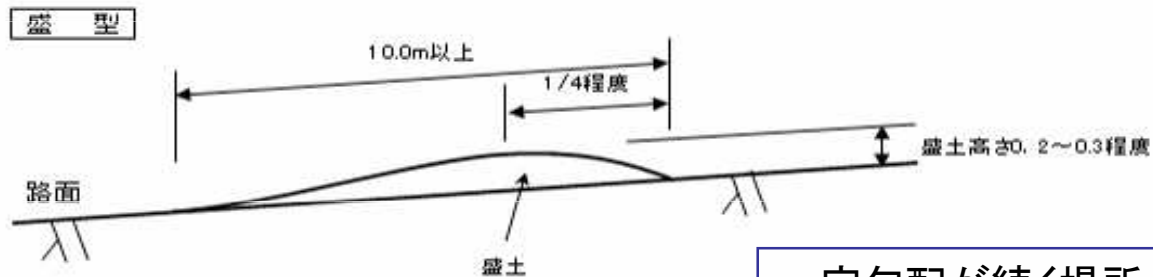
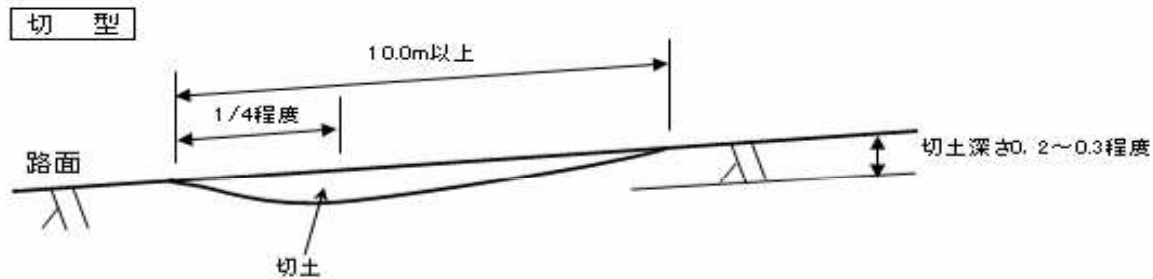
盛土法面はバケットで転圧・整形して仕上げる。

盛土表面を十分に締め固めておくことで降雨による浸食を防ぐ。

※表土ブロック積み工法を行った場合には盛土表面のバケット転圧を行わない。

土工横断排水工—施行方法—

木製等の横断溝は、土砂が堆積するため継続的な維持管理が必要になるが、安定した尾根部や地山への土工による横断排水工はその維持管理を減らすことが期待でき、路面水の処理で有効な方法と考えられる。

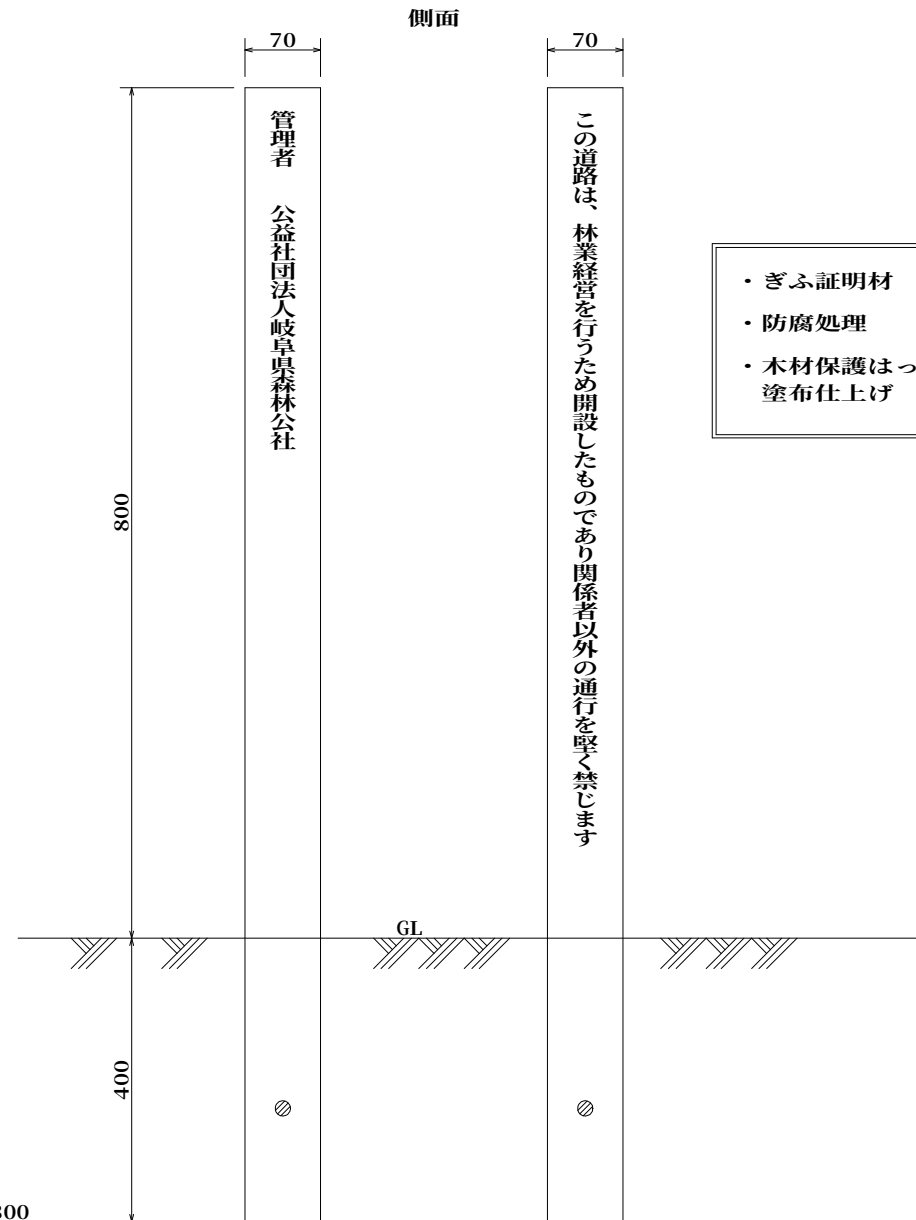
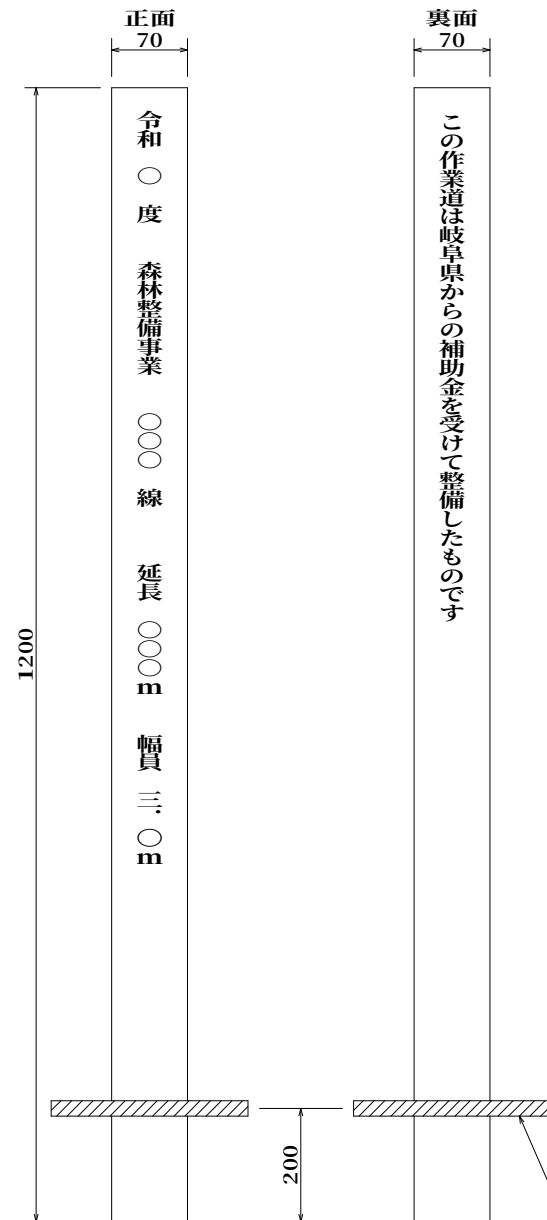


一定勾配が続く場所や湧水がある場合に設置する

縦断勾配による横断排水工設置の目安

縦断勾配	0～ 6%・・・100mに1箇所
	7～10%・・・ 50mに1箇所
	11%～ … 25mに1箇所

第〇〇〇号 作業道-管理標識1 標準図



- ・ ぎふ証明材
- ・ 防腐処理
- ・ 木材保護はっ水塗装
塗布仕上げ